

# 農村地域の自律的発展を支援するワークショップ手法の構築

## Workshop Method to Support Endogenous Development in Rural Areas

○中島正裕\* 山浦晴男\*\* 福井隆\*\*\*

NAKAJIMA Masahiro YAMAURA Haruo FUKUI Takashi

### 1. はじめに

地域再生法(2005.4.1)が施行されて以降、“地域にできることは地域に”という潮流が一層強まる中、行政依存から脱却して住民自らが地域固有の資源(風土、歴史、文化など)を再評価し、地域の自律的発展に向けて立ち上がることが求められている<sup>1)</sup>。本研究では、「農村地域の自律的発展を支援するWS手法」を仮説的に体系化し、社会実験として地域に適用することで有効性の検証を行う。

### 2. 研究方法

#### 2.1 本WS手法の概要と実施地区

本WS手法は事業計画への合意形成や意思決定の支援を目的としたものではなく、住民が主体的に地域づくりを担うための「学びの場」を提供するものである。すなわちWS参加者が「思い・つぶやき」(第1回WS)⇒「再発見・気付き」(宿題①, 第2回WS)⇒「創造・評価」(宿題②, 第3回WS)というプロセス(図1)を通して地域づくりに必要な能力を養うための一助とするものである。

本WS手法は和歌県内の10地区で実施した。10地区で合計30回(各地区3回)のWSに延べ528名(男性382名、女性146名)の参加があった。

#### 2.2 研究のフロー

まず、前掲の図1に示したWS手法の手順に沿って本WS手法の適用結果を述べる。なお、本稿では海南市孟子(もうこ)地区における適用結果

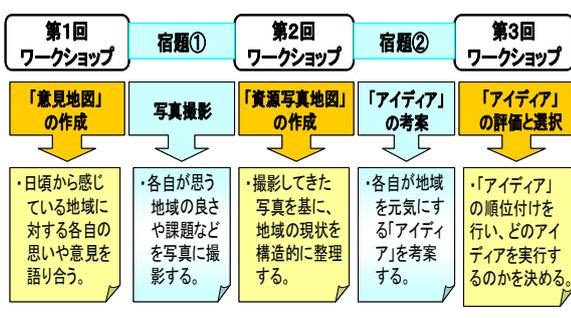


図1 ワークショップの手順

を述べる。次いで、全10地区で毎回WS終了後に参加者に依頼した“WSの感想”をKJ法で分析し、本WS手法の成果と課題を明らかにする。

### 3. WSの実施結果

#### 3.1 第1回WSの結果(参加者:44名)

特定の検討テーマを設けず、WSへの参加者がそれぞれ地域に対する“思い”や“意見”を自由に発言し、地域に対する各人の考えをWSへの参加者全員で認識し合った(図2)。

その内容を概括的にみると、「美しい自然」、「安心して住める」、「里山がきれい」といったキーワードに代表される、様々な地域資源に対する誇りや愛着がみられた。その一方で、「農業基盤整備の不備」(用水路と農道)を筆頭に「若者・子どもが少ない」、「農地の荒廃」、「里山が荒廃」といったキーワードに代表される課題や不満もみられた。

#### 3.2 第2回WSの結果(参加者:38名)

第1回WSで参加者が述べた地域への“思い”や“意見”に該当する“場所”や“もの”を各自が写真撮影して持ち寄り(宿題①)、6つの班に分かれて「資源写真地図」を作成して報告した。なお、資源写真地図の作成方法・手順は、発表会の際に詳述する。ここでは6班の資源写真地図を写真1に示し、その内容について要約する。

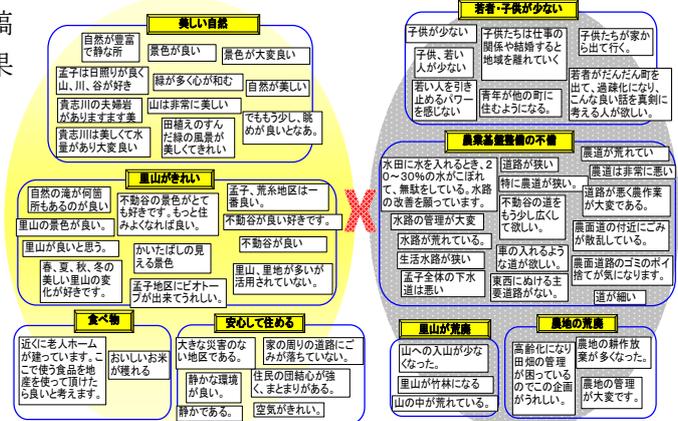


図2 孟子地区に対する住民の思いや意見

東京農工大学農学部 \*Faculty of Agriculture, Tokyo Univ. of Agri. and Tech., \*\* (有) 情報工房 \*Information Workshop JOHOKOBO INC., \*\*\*東京農工大学大学院生物システム応用科学府 \*Graduate school of BASE, Tokyo Univ. of Agri. and Tech.  
キーワード: ワークショップ、内発的発展、住民参加

“孟子地区千景”（加伊太橋からの貴志川の美しい風景、鶏頭の花が咲いている稲刈り後の田園風景など）と“他地区よりも生産の多い豆類”が地区の誇れる資源として取り上げられている。これらと対立関係にあるものとして“里山の荒廃”（竹害や空き家の様子）、“後継者不足とイノシシ被害”（荒廃した農地の様子）が位置づけられている。一方で、こうした孟子地区の課題解決として NPO ビオトープ（里山再生活動）への期待がみられる。

### 3.3 第3回WSの結果(参加者：26名)

「資源写真地図」の結果を踏まえて、参加者は各々考案してきた「アイデア」(宿題②)を発表した上で、どのアイデアを優先的に実践していくかについて評価と選択を行った(表1)。



写真1 6班の資源写真地図 (タイトル: 孟子地区の改革)

表1 アイディアの順位付けの結果

キーワード	アイデア	点数	順位
耕作放棄地の対策	黒大豆を栽培し健康食品(味噌、豆腐、納豆など)を作る。	48	2
	休耕田を花畑(コスモスやヒマワリなど)にして、里山の谷間を花いっぱいにする。	47	3
	桜を植え、桜並木をつくる。	25	5
	観光農園とオーナー園の開設する。	18	6
	菜の花を栽培して菜種油を搾油する。	8	12
	高齢者の人でも簡単に作れる農産物(ししとう、ピーマンなど)を栽培する。	10	10
	田に水を貯め魚を飼養し、郷土料理を作る。	4	19
	観光農園(栗)と地鶏の放し飼い。	3	22
	ウコンを栽培する。	0	25
	直売所を設置する。	12	8
都市との交流推進	“孟子米”(もうこまい)としてブランド化する。	9	11
	荒糸川に観光水車を作る。	5	16
	空き家のオーナー制度を行う。	4	19
	有機農産物を栽培して販売する。	4	19
	旧熊野街道をルートとしたハイキング、トレッキング	3	22
農業基盤の改修	農業用水路の護岸を改修する。	54	1
	農道の荒れた箇所を改修する。	37	4
対策 竹害	竹細工(花瓶、コップ、一輪挿しなど)を販売する。	6	14
	竹炭、竹酢液を製造販売する。	5	16
対策 獣害	イノシシ料理(急増するイノシシの対策の一環)	5	16
	サル、イノシシが食べない梅の栽培する。	2	24
都市へのPR	孟子のホームページを開設する。	13	7
	孟子地区内の名所等のPRの立看板を立てる。	11	9
生活インフラの整備	県道の整備	0	25
	医療施設の整備	0	25
その他	地区内のイベント等で孟子児童館を有効利用していく。	7	13
	地域づくりを推進する上での組織体制の整備	6	14

合計44個のアイデアが考案され、第1位は「農業用水路の護岸を改修する」(54点)、第2位は「黒大豆を栽培し、健康食品を作る」(48点)、第3位は「休耕田を花畑にして、里山の谷間を花いっぱいにする」(47点)であった。第4位が「農道の荒れた箇所を改修する」(37点)であることも考慮すると、孟子地区で優先的に解決すべき課題は、耕作放棄地の対策と農業基盤の改修であった。

### 4. 参加者の感想にみる本WSの成果と課題

WSを実施した全10地区から得た参加者の感想(347個)をKJ法により分析した結果を述べる。

第1回WS後には、地区に対する他の住民の意見を知ることができたこと、及び地域を見直すきっかけになったことへの満足感がみられた。その一方で、自立的な地域づくりへの消極的な意見、WSへの参加者の属性の偏重への指摘がみられた。

第2回WS後には、地域づくりを実践していく上での共同作業の大切さの認識と世代間交流の機会を持てたことへの満足感がみられた。また、写真を用いて地域の特徴や課題を構造的に把握できたことへの肯定的評価がみられた。さらには、前回WSではなかった地域の自立的発展に向けた意欲の向上がみられた。一方で、WSの作業内容、作業時間等に関する改善点への指摘がみられた。

第3回WS後には、各自のアイデア発表を通して世代間で交流を深めることができたことへの満足感がみられた。また、単にアイデアの創出に終わらずに実際にアイデアを実現させていくための今後の活動意欲がみられた。これに関して、孟子地区ではWS後に「孟子地域づくりの会」を発足させて表1のアイデア(2位)などを実現している。他の9地区でも同様の動きがみられる。

### 5. まとめ

本WSの一連のプロセス(図1)を体験した住民に、地域が自立的発展していく上での礎となるであろう、地域づくりに関する新たな気づきや意識の変化がみられた。こうした変化は、農村地域の自立的発展に向けての“スタートライン”に立った状態を意味するといえる。今後、本WSへの参加者が中心となり地区全体(WS非参加者含む)で今回のWSの結果や地区の将来について議論する場を設けながら、地区の自立的発展に向けての活動が本格化していくことが期待される。

参考文献：1) 農林水産省(参照 2007.3.14)：立ち上がる農山漁村, <http://www.maff.go.jp/tatiagaru/newpage9.htm>